

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月9日
【四半期会計期間】	第117期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	日立造船株式会社
【英訳名】	Hitachi Zosen Corporation
【代表者の役職氏名】	取締役社長 谷所 敬
【本店の所在の場所】	大阪市住之江区南港北一丁目7番89号
【電話番号】	06（6569）0022
【事務連絡者氏名】	経理部長 中村 敏規
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区南大井六丁目26番3号
【電話番号】	03（6404）0800
【事務連絡者氏名】	総務・人事部 東京総務グループ長 岩本 浩
【縦覧に供する場所】	日立造船株式会社東京本社 （東京都品川区南大井六丁目26番3号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第116期 第1四半期連結 累計期間	第117期 第1四半期連結 累計期間	第116期
会計期間	平成24年 4月1日から 平成24年 6月30日まで	平成25年 4月1日から 平成25年 6月30日まで	平成24年 4月1日から 平成25年 3月31日まで
売上高(百万円)	62,701	58,192	296,792
経常利益または経常損失( ) (百万円)	224	4,899	11,246
四半期純損失( )または当期純 利益(百万円)	673	4,395	7,410
四半期包括利益または包括利益 (百万円)	474	4,731	7,062
純資産額(百万円)	108,778	108,372	115,125
総資産額(百万円)	355,316	344,580	366,346
1株当たり四半期純損失( )金 額または1株当たり当期純利益金 額(円)	0.85	5.61	9.36
潜在株式調整後1株当たり当期純 利益金額(円)	-	-	8.96
自己資本比率(%)	26.2	26.7	26.9

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 売上高には、消費税等を含んでいない。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額について、第116期第1四半期連結累計期間は、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、第117期第1四半期連結累計期間は、潜在株式が存在しないため、それぞれ記載していない。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はない。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものである。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における経済情勢は、海外では、欧州政府債務危機問題の長期化、中国やインドにおける経済成長の減速等、依然として不透明な状況が継続している一方、国内では、政府・日本銀行による各種経済政策・金融緩和策への期待に伴う株価の上昇や円高基調の緩和など、景気にやや持ち直しの動きも見られるようになった。

こうした中で、当社グループでは、平成23年度からスタートした3か年の中期経営計画「Hitz Vision」のもと、社会的存在感のある高収益企業への進化を目指して、事業と経営管理のイノベーションの観点から、伸長分野への経営資源の重点投入と事業伸長力の強化、収益力の向上、財務体質の強化、新事業・新分野の開発といった重点施策を鋭意推進するとともに、収益の源泉となる受注の拡大に努めてきた。

以上のような取り組みを進める中で、当第1四半期連結累計期間の業績については、売上高は、機械部門における売上減少等により、前第1四半期連結累計期間に比べ4,509百万円（7.2%）減少の58,192百万円となった。

損益面では、営業損益は、機械部門の悪化等により、前第1四半期連結累計期間に比べ4,157百万円悪化し、4,624百万円の損失計上となった。また、経常損益は、営業損失及び持分法による投資損失の計上等により、前第1四半期連結累計期間から4,675百万円悪化し、4,899百万円の損失計上となった。

この結果、四半期純損益についても、前第1四半期連結累計期間から3,722百万円悪化し、4,395百万円の損失計上となった。

セグメントごとの業績の概要は次のとおりである。

なお、当第1四半期連結会計期間より、セグメント区分を変更している。これに伴い、前第1四半期連結累計期間の数値についても、変更後の区分に組み替えて記載している。

#### 環境・プラント

環境大口工事の売上減少等に伴い、売上高は前第1四半期連結累計期間に比べ576百万円（1.7%）減少の32,748百万円、セグメント損失は前第1四半期連結累計期間に比べ1,226百万円悪化し、2,340百万円となった。

#### 機械

船用原動機等が低調に推移したことにより、売上高は前第1四半期連結累計期間に比べ4,199百万円（26.4%）減少の11,701百万円、セグメント損失は814百万円（前第1四半期連結累計期間はセグメント利益1,818百万円）となった。

#### プロセス機器

大口工事の受注があったものの、収益への本格的な寄与はまだ先になるため、売上高は前第1四半期連結累計期間に比べ537百万円（17.8%）減少の2,479百万円、セグメント損失は415百万円（前第1四半期連結累計期間はセグメント利益101百万円）となった。

#### インフラ

公共事業における厳しい受注環境の中で、売上高は前第1四半期連結累計期間に比べ595百万円（12.0%）増加の5,535百万円、セグメント損失は前第1四半期連結累計期間に比べ213百万円改善し、778百万円となった。

#### 精密機械

低調な民間需要が継続する中であって、売上高は前第1四半期連結累計期間に比べ473百万円（14.2%）増加の3,809百万円、セグメント損失は前第1四半期連結累計期間に比べ230百万円改善し、246百万円となった。

その他

売上高は前第1四半期連結累計期間に比べ264百万円(12.1%)減少の1,917百万円、セグメント利益は前第1四半期連結累計期間に比べ82百万円(53.6%)減少の71百万円となった。

当社グループの事業の性質上、連結会計年度末に完成する工事の割合が大きく、売上高が連結会計年度末に集中することから、業績は季節的変動が大きくなる傾向がある。

また、財政状態については次のとおりである。

流動資産

前連結会計年度末の201,237百万円から20,816百万円(10.3%)減少し、180,421百万円となった。これは、主に売上債権の回収に伴う受取手形及び売掛金の減少によるものである。

固定資産

前連結会計年度末の165,069百万円からほぼ横ばいの164,123百万円となった。

負債

前連結会計年度末の251,221百万円から15,014百万円(6.0%)減少し、236,207百万円となった。これは、主に仕入債務の支払いに伴う支払手形及び買掛金ならびに未払費用の減少によるものである。

純資産

前連結会計年度末の115,125百万円から6,753百万円(5.9%)減少し、108,372百万円となった。これは、主に四半期純損失の計上によるものである。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費は、1,295百万円である。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況について重要な変更はないが、平成25年4月1日より、「事業・製品開発本部」の名称を「技術開発本部」に変更している。

(4) 主要な設備

前連結会計年度末において計画であった主要な設備の新設、拡充、改修等の計画について、当第1四半期連結累計期間に著しい変更があったものは、次のとおりである。

当社本社部門のメタン発酵実機設備の新設については、工程の変更により完了予定年月が平成25年8月に変更となった。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性のある要因について重要な変更はない。

(6) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

有利子負債

当第1四半期連結会計期間末の有利子負債は前連結会計年度末の102,643百万円から、5,728百万円減少し、96,915百万円となった。

(7) 戦略的現状と今後の方針

当社グループでは、平成23年度から3か年の中期経営計画「Hitz Vision」のもと、事業と経営管理のイノベーションの観点から、伸長分野の明確化、事業伸長力の強化、基礎的収益力向上のためのバランス経営の推進、業界ナンバーワンの収益力実現のための事業戦略の推進、フラット・マトリックス経営体制の推進、財務体質のさらなる強化、将来収益につながる新事業・新分野の開発、企業風土のさらなる改革と人材育成といった重点施策を鋭意推進し、社会的存在感のある高収益企業への進化を遂げていく所存である。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000,000,000
計	2,000,000,000

(注) 平成25年6月25日開催の定時株主総会における定款の一部変更の承認可決により、平成25年10月1日を効力発生日として、発行可能株式総数は1,600,000,000株減少し、400,000,000株となる。

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所名 または登録認可金融商 品取引業協会名	内容
普通株式	796,073,282	796,073,282	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数500株
計	796,073,282	796,073,282	-	-

(注) 平成25年6月25日開催の定時株主総会における定款の一部変更の承認可決により、平成25年10月1日を効力発生日として、単元株式数は400株減少し、100株となる。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高(千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	796,073	-	45,442	-	5,946

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 12,329,000	-	単元株式数500株
完全議決権株式(その他)	普通株式 781,288,000	1,562,576	同上
単元未満株式	普通株式 2,456,282	-	-
発行済株式総数	796,073,282	-	-
総株主の議決権	-	1,562,576	-

(注)1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式37,500株が含まれている。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数75個が含まれている。

2. 平成25年6月25日開催の定時株主総会における定款の一部変更の承認可決により、平成25年10月1日を効力発生日として、単元株式数は400株減少し、100株となる。

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名または名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日立造船株式会社	大阪市住之江区南港北一丁目7-89	12,329,000	-	12,329,000	1.55
計	-	12,329,000	-	12,329,000	1.55

(注) 株主名簿上は当社名義となっているが、実質的に所有していない株式が3,000株(議決権の数6個)ある。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式に含めている。

2【役員の状況】

該当事項なし。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成している。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	59,249	68,666
受取手形及び売掛金	2,3 107,833	2,3 70,990
有価証券	45	48
商品及び製品	671	863
仕掛品	14,949	19,379
原材料及び貯蔵品	3,716	4,060
その他	16,222	17,617
貸倒引当金	1,450	1,205
流動資産合計	201,237	180,421
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	33,988	33,571
土地	67,722	67,722
その他(純額)	21,761	21,050
有形固定資産合計	123,472	122,345
無形固定資産		
のれん	4,735	4,745
その他	2,246	2,294
無形固定資産合計	6,982	7,040
投資その他の資産		
その他	35,651	35,902
貸倒引当金	1,037	1,164
投資その他の資産合計	34,614	34,738
固定資産合計	165,069	164,123
繰延資産	39	35
資産合計	366,346	344,580

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 52,499	3 39,190
電子記録債務	-	11,056
短期借入金	36,523	33,762
未払費用	37,140	28,689
未払法人税等	2,320	811
前受金	16,754	17,418
役員賞与引当金	81	14
保証工事引当金	5,579	5,202
工事損失引当金	9,794	10,592
その他	10,377	11,971
流動負債合計	171,070	158,709
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	55,500	52,570
退職給付引当金	9,829	10,594
役員退職慰労引当金	693	474
資産除去債務	933	935
その他	3,192	2,922
固定負債合計	80,150	77,498
負債合計	251,221	236,207
純資産の部		
株主資本		
資本金	45,442	45,442
資本剰余金	5,973	5,973
利益剰余金	48,314	42,351
自己株式	1,798	1,983
株主資本合計	97,931	91,784
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	292	428
繰延ヘッジ損益	1,110	1,442
在外子会社年金債務調整額	879	879
土地再評価差額金	21	21
為替換算調整勘定	442	452
その他の包括利益累計額合計	482	295
新株予約権	0	0
少数株主持分	16,710	16,292
純資産合計	115,125	108,372
負債純資産合計	366,346	344,580

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	62,701	58,192
売上原価	53,174	53,472
売上総利益	9,527	4,719
販売費及び一般管理費	9,994	9,344
営業損失( )	467	4,624
営業外収益		
受取利息	21	15
受取配当金	89	117
為替差益	-	581
持分法による投資利益	688	-
その他	278	126
営業外収益合計	1,077	841
営業外費用		
支払利息	368	338
持分法による投資損失	-	492
為替差損	205	-
その他	260	284
営業外費用合計	834	1,115
経常損失( )	224	4,899
税金等調整前四半期純損失( )	224	4,899
法人税等	377	331
少数株主損益調整前四半期純損失( )	602	4,568
少数株主利益又は少数株主損失( )	71	172
四半期純損失( )	673	4,395

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	602	4,568
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	244	76
繰延ヘッジ損益	78	304
為替換算調整勘定	329	82
持分法適用会社に対する持分相当額	35	146
その他の包括利益合計	127	163
四半期包括利益	474	4,731
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	558	4,582
少数株主に係る四半期包括利益	84	149

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年6月30日まで)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	三晃工業(株)は、重要性が増加したことから、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めることとした。前連結会計年度において連結子会社であったエヌビイエル(株)は、当第1四半期連結会計期間に破産会社となったため、連結の範囲から除外している。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	神港精機(株)は、重要性が増加したことから、当第1四半期連結会計期間より持分法適用の範囲に含めることとした。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第1四半期連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年6月30日まで)	
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算している。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の借入金等に対し、債務保証を行っている。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
舟山普斯耐馳船舶機械有限公司	7百万円	舟山普斯耐馳船舶機械有限公司 9百万円
その他	5 "	その他 5 "
計	12百万円	計 14百万円

2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形裏書譲渡高	234百万円	176百万円

3 期末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理している。なお、当第1四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が当四半期連結会計期間の末日の残高に含まれている。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	508百万円	338百万円
支払手形	661百万円	547百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び当第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)

当社グループの事業の性質上、連結会計年度末に完成する工事の割合が大きく、売上高が連結会計年度末に集中することから、売上高は季節的変動が大きくなる傾向がある。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (平成24年4月1日から 平成24年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年6月30日まで)
減価償却費	1,987百万円	1,939百万円
のれんの償却額	49百万円	156百万円
負ののれんの償却額	7百万円	7百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)

配当金支払額

平成24年6月22日の定時株主総会において、次のとおり決議している。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	1,587百万円
1株当たり配当額	2円
基準日	平成24年3月31日
効力発生日	平成24年6月25日
配当の原資	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)

配当金支払額

平成25年6月25日の定時株主総会において、次のとおり決議している。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	1,567百万円
1株当たり配当額	2円
基準日	平成25年3月31日
効力発生日	平成25年6月26日
配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2
	環境・ プラント	機械	プロセス 機器	インフラ	精密機械	その他	合計		
売上高									
外部顧客への売上高	33,324	15,900	3,016	4,940	3,336	2,181	62,701	-	62,701
セグメント間の内部 売上高または振替高	63	11	208	165	145	693	1,288	1,288	-
計	33,388	15,911	3,225	5,106	3,482	2,875	63,989	1,288	62,701
セグメント利益または セグメント損失 ( )	1,114	1,818	101	991	476	153	509	41	467

(注)1. セグメント利益またはセグメント損失の調整額41百万円は、セグメント間取引消去に関わるものである。

2. セグメント利益またはセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報  
 該当事項なし。

当第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2
	環境・ プラント	機械	プロセス 機器	インフラ	精密機械	その他	合計		
売上高									
外部顧客への売上高	32,748	11,701	2,479	5,535	3,809	1,917	58,192	-	58,192
セグメント間の内部 売上高または振替高	98	11	1	137	209	664	1,123	1,123	-
計	32,846	11,712	2,481	5,673	4,019	2,582	59,316	1,123	58,192
セグメント利益または セグメント損失 ( )	2,340	814	415	778	246	71	4,523	101	4,624

(注)1. セグメント利益またはセグメント損失の調整額 101百万円は、セグメント間取引消去に関わるものである。

2. セグメント利益またはセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っている。

2. 報告セグメントの変更等に関する情報

当第1四半期連結累計期間より、収益管理体制の見直しに伴い、報告セグメントを従来の「環境」及び「プラント」セグメントから「環境・プラント」セグメントへ変更している。これに伴い、比較情報である前第1四半期連結累計期間についても、変更後の区分に組み替えて記載している。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する情報  
 該当事項なし。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失( )金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (平成24年4月1日から 平成24年6月30日まで)	当第1四半期連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年6月30日まで)
1株当たり四半期純損失( )金額	85銭	5円61銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失( )金額(百万円)	673	4,395
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失( )金額 (百万円)	673	4,395
普通株式の期中平均株式数(千株)	793,840	783,283
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった 潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動が あったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額について、前第1四半期連結累計期間は、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、当第1四半期連結累計期間は、潜在株式が存在しないため、それぞれ記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2【その他】

ごみ焼却炉建設工事の入札に関して独占禁止法違反があったとして、当社に対し、4,901百万円の課徴金納付を命じる公正取引委員会の審判審決を不服として、東京高等裁判所に提起していた審決取消請求訴訟において、平成24年3月2日に、当社の請求を棄却する判決があったが、当社は最高裁判所に上告し、現在係属中である。  
 さらに、これに関連して、発注者からの損害賠償請求訴訟1件が係属中である。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月9日

日立造船株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 新田 東平 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 辰巳 幸久 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小幡 琢哉 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日立造船株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日立造船株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管している。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていない。